

# サステナブルなイベント： 環境の見える化と対策

# 本日のアジェンダ

---

01 Zeveroのご紹介

---

02 イベントのサステナビリティ実施する背景

---

03 イベントLCAの算定について

---

04 サプライチェーンへの影響

---

05 Q&A

---



# Zeveroのご紹介

# 私たちZeveroは気候変動に向けた行動を支援する グローバルチームです



## 40+

名の経験豊富で多様性に富んだ  
エキスパート（ロンドン、東京、  
シンガポール）

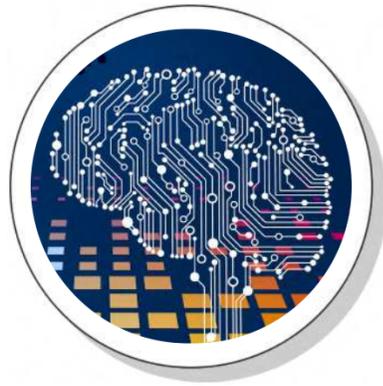
## 10万+

の世界中の様々な排出量係数をシステム  
に実装。AIが最適な係数を自動で  
見つけ出して計算

## 20+

以上の国のお客様にサービスを提供

# Zeveroは脱炭素変革を推進するために生まれました



## AI 炭素会計

AIをフル活用しScope1-2-3集計を  
シンプル・スピーディに  
AIがデータを読み取り排出量係数マッ  
チングを自動で実施。データを入れる  
だけでScope1-2-3を自動計算します  
世界中の排出係数データベースも実装  
済



## LCA/PCF/EPD

シンガポール政府が開発した最新の  
LCAツールと国際経験豊富なグローバ  
ルLCAエキスパートが世界基準での  
測定・分析を実施。ニーズの高まるPCF  
やEPD取得までサポート



## AI ESG

世界のESG報告基準に対応  
回答案を言語を問わずAIが自動作成の  
後、ESG専門家が品質を確認  
さらに、SBTIなど国際認証取得も支援、  
ESG経営の進化をサポートします

# 日本でのお客様一例

B to B / B to C、業界、企業規模問わず幅広くご採用いただいています。

<p>Asahi</p> <p>プライム上場 B to C 飲料</p>	<p>SMC</p> <p>プライム上場 B to B 産業機器</p>	<p>DNP 大日本印刷</p> <p>プライム上場 B to B 産業機器</p>	<p>Menicon</p> <p>プライム上場 B to C 医療機器</p>	<p>Dexerials</p> <p>プライム上場 B to B 産業機器</p>
<p>住商フーズ株式会社 住友商事グループ</p> <p>プライム上場G B to B 食品</p>	<p>株式会社 コングレ</p> <p>B to B MICE</p>	<p>SEINAN</p> <p>B to B リサイクル</p>	<p>PRIME STAR</p> <p>B to B エネルギー</p>	<p>食からはじまる未来のまちづくり 株式会社 にじまち</p> <p>B to C 食品</p>
<p>東京都</p> <p>自治体</p>	<p>白馬村 HAKUBA VILLAGE</p> <p>自治体</p>	<p>IWAKI FC</p> <p>スポーツ</p>	<p>NAGOYA GRAMPUS</p> <p>スポーツ</p>	<p>ヤッホー ブルーイング</p> <p>B to C 飲料</p>

# 提供サービス

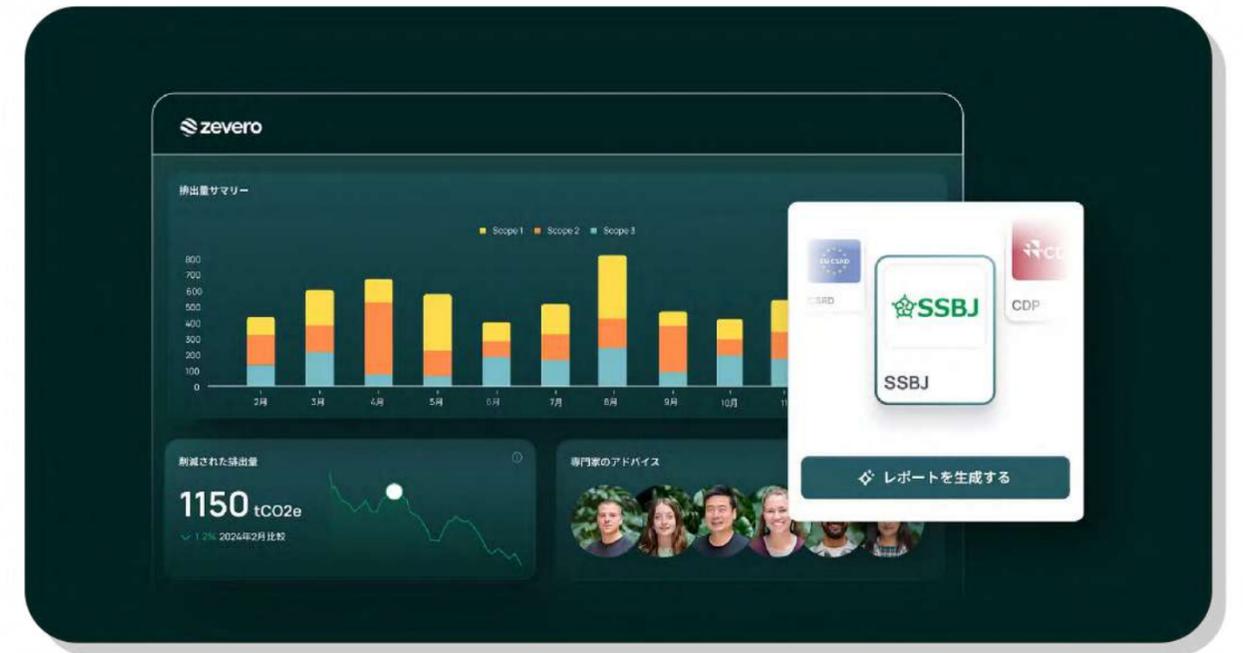
AIとコンサルティングの掛け合わせで効率的に支援

## 01 AIによる脱炭素経営支援 (Carbon Accounting Solution)

AIの活用とERP連携を軸として、最先端の炭素排出量高速自動測定エンジンを用いて、国・言語・規制を問わず、貴社サプライチェーンの温室効果ガス排出量を正確かつ高速に算出致します。

## 02 LCA/PCFサービス

環境技術で目覚ましい進化を遂げているシンガポール科学技術研究庁が開発した最新ツールを用い、多くのSKUのLCA算出を高速化し、集計ではなく実際の環境アクションに割く時間を創出します。ニーズが高まるPCFも本技術を用いることで高精度・高品質に分析・報告支援します。



## 03 AIによるESG報告書作成支援

AIを活用した高速処理エンジンが、社内各ESG関連データを自動解析。世界各国・各団体のESG報告書のフォーマットに則した形で報告書を数秒で自動作成。”報告書疲れ”の副作用を最小限にしつつ、業務の効率化とアクションに割く時間を増やししながらESG経営を推進します。

## 04 サプライヤーエンゲージメント支援

グローバルのベストプラクティスに基づき、サプライヤープログラム企画・運営・実装を行い、Scope3削減を推進します。



## 株式会社名古屋グランパスエイト 様

### “地域とともに、世界とつながる”クラブが描く、サステナビリティ戦略の全体設計

欧州サッカークラブの先進事例や国際動向を踏まえ、Jクラブとして先進的なモデル構築を目指す。気候変動への対応を起点に、持続可能なクラブ経営体制を戦略的に設計。

#### ✓ 環境戦略のロードマップ設計とKPIの明確化

- ・ 国際的な潮流（例：欧州リーグの取り組み等）を意識した、実行可能性の高い戦略設計
- ・ グローバル基準のサステナビリティへの対応を見据えた、12項目横断での全体方針設計支援

#### ✓ クラブ内外への発信強化（Web・レポート整備）

- ・ サステナ特設ページの再構築と、発信項目・構成の設計サポート
- ・ インパクトレポートの構成・原稿支援（対スポンサー／地域／ファン別視点）
- ・ 欧州クラブにおける発信手法などを参考に、地域やファンに向けた共感・理

#### ✓ 試合単位の単位（一部アウェイ）でのLCA算定

- ・ 試合開催に伴うCO<sub>2</sub>排出量をLCA手法により可視化。
- ・ 会場、観客移動、飲食、エネルギー使用などを網羅し、試合単位で環境負荷を定量的に把握。将来的な削減施策立案やファン・パートナーとの共創型アクションに向けた基盤を構築。



## 東京都 様

# "環境先進都市東京"に向けて 都内4,000以上の公共施設の排出量を可視化し 全職員が自分事として排出削減を行う東京都へ

- 1 2030年カーボンハーフ・2050年Net Zeroという東京都の削減目標達成を見据えた、都職員の文化の改革を狙う
- 2 国家規模のGDPを誇る自治体として、全施設の排出量をボトムアップで算定するという前例を見ない先進的な取組を推進
- 3 各施設ごとが競い合い・成功事例を共有できる基盤として全職員が排出データ探索を行えるデータ基盤を構築
- 4 施策推進を行うための判断軸となる原単位(築年数・床面積・用途等)を定義し、年度単位での各原単位ごとの排出削減のPDCAサイクルを推進する

**「安全」と「サステナビリティ」は、  
完全に無関係である。**



**安全・リスク管理**



**サステナビリティ**

# 本当に無関係でしょうか？



表面上、これらは全く異なる部門に属しています。

- 安全 (Safety) は、即時的な危険の排除に焦点を当てます。
- サステナビリティ (Sustainability) は、長期的な環境影響に焦点を当てます。

しかし、この境界線は本当に正しいのでしょうか？



# イベントの サステナビリティ 実施する背景

# 気候非常事態とイベント業界への圧力

パリ協定の1.5度目標に対し、現状の気候変動は「広範で、急速で、激しく」進行中。イベント業界も例外ではなく、ステークホルダーからの要請が急増しています。



**81%**

サステナブルな旅行が重要だと考える世界の旅行者の割合  
(Booking.com)



**73% & 71%**

トレードショーのサステナビリティに対する強いコミットメントを重視する出展者 (73%) と来訪者 (71%) (UFI)



**34%**

適切な環境アプローチをとっていないトレードショーには「出席しない」と答えた出展者の割合

イベントにおける脱炭素化は、もはや「社会的責任 (CSR)」にとどまらず、ビジネスの「参加条件」へと変化している。

# ベンチマークとしてのシンガポール： 国家主導のサステナビリティ・ロードマップ

- Singapore Green Plan 2030**  
国の持続可能な発展を牽引する国家戦略。観光・MICE  
セクターのグリーン化を強力に推進。
- MICE Sustainability Roadmap (2022)**  
シンガポール政府観光局（STB）が策定。業界全体の  
変革を促し、持続可能性と観光の両立を証明する青写真。
- Global Destination Sustainability (GDS)**  
アジア太平洋地域におけるMICEサステナビリティの  
ハブとしての地位を確立。

シンガポールは、サステナビリティを単なる  
環境対策ではなく、次世代のMICE誘致にお  
ける「**コア競争力**」として国家レベルで実装  
しています。



# MICEとは：ビジネスイベントの4つの柱



知識の共有、イノベーション、そして経済成長を牽引するエンジン



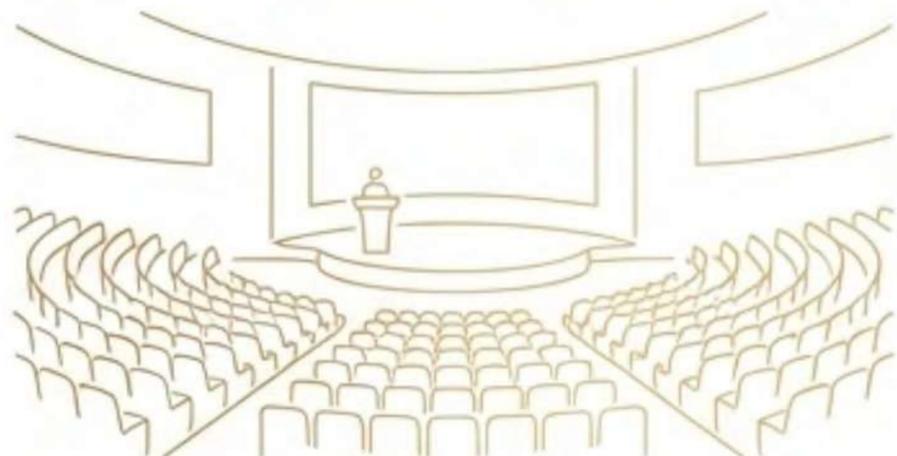
## M - Meetings (企業系会議)

戦略の共有と意思決定の場。経営会議、ブランド戦略会議など。



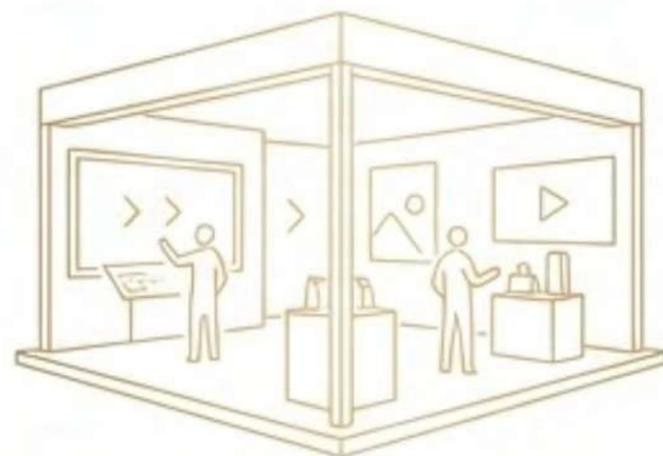
## I - Incentive Travel (報奨・研修旅行)

従業員やパートナーのモチベーション向上、人材定着（リテンション）を目的とした体験型旅行。



## C - Conferences / Conventions (国際会議・学会)

業界のネットワーキング、知識共有、グローバルな課題解決に向けた大規模な会議。



## E - Exhibitions / Events (展示会・イベント)

B2Bネットワーキング、新製品発表、市場拡大のためのトレードショーやプロモーション。

# スポーツとメガイベント：ネットゼロに向けた世界基準

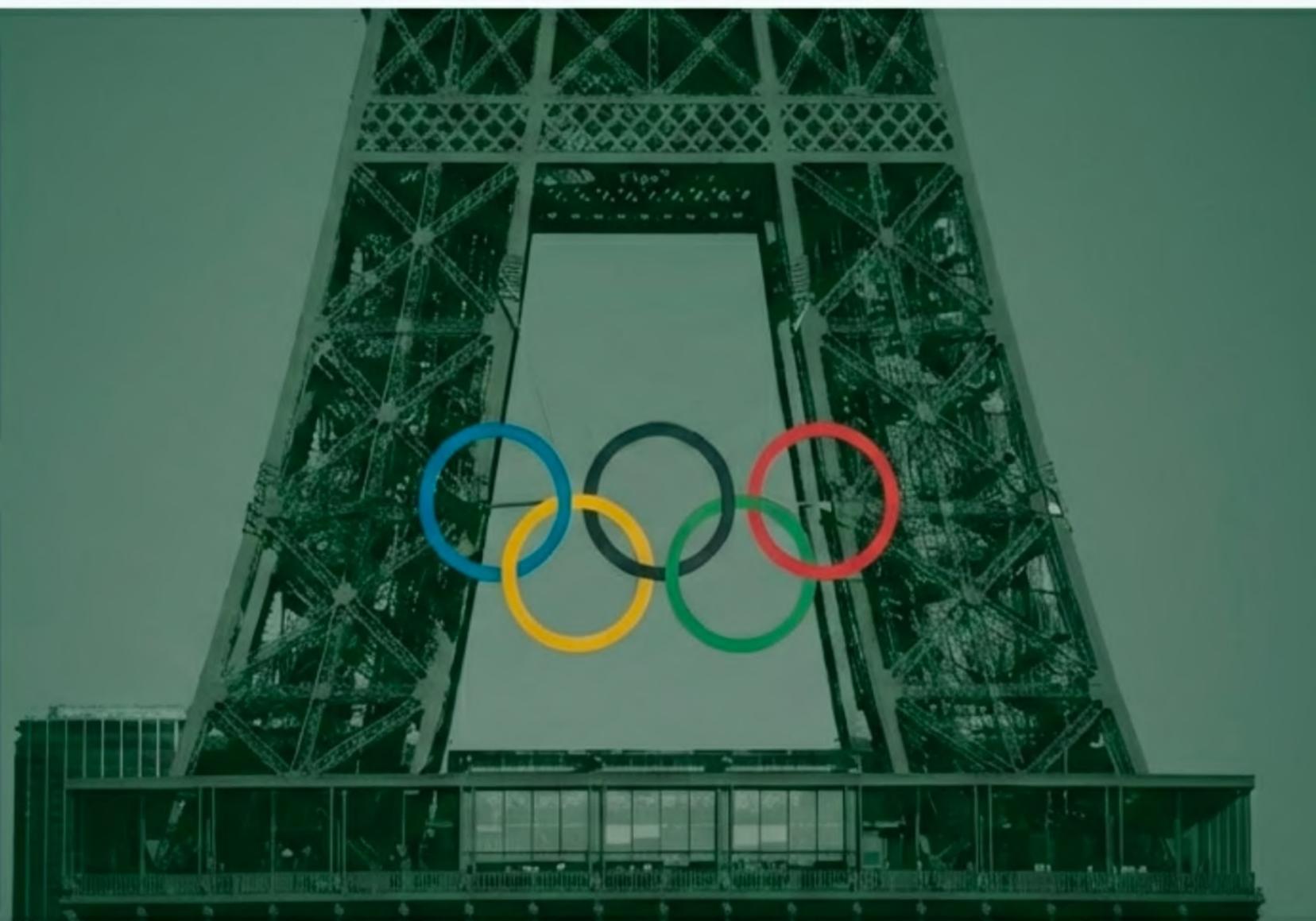
スポーツイベントはその規模の大きさから、環境への影響が劇的に増幅されます。しかし、現在では持続可能性のショーケースとして機能しています。

## パリ2024大会の革新

- 過去の大大会と比較して二酸化炭素排出量を半減（158万トンに抑制）する目標を設定。既存・仮設の競技場を95%利用し、100%再生可能エネルギーで稼働。

## プレミアリーグのネットゼロマッチ

- トッテナム対チェルシー戦では、バイオ燃料バスでの選手移動、スタジアム内での植物由来の食事提供、プラボトルの廃止を実施。国連の「スポーツ気候行動枠組み」に署名。



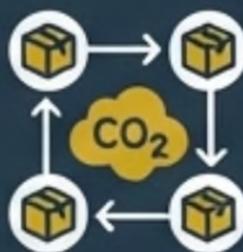
# スポンサーの要求：サステナビリティは協賛の絶対条件

なぜスポーツイベントは急速にグリーン化しているのでしょうか？最大の理由は、資金を提供する「スポンサー企業の厳格な要求」です。



- **ESG投資とCSRD対応：**

スポンサー企業は、自社のESG（環境・社会・ガバナンス）目標と欧州のCSRD（企業サステナビリティ報告指令）等へのコンプライアンスを求められています。



- **Scope 3（サプライチェーン）排出の管理：**

環境負荷の高いイベントへの協賛は、自社のScope 3排出量を増加させ、ブランドの評判を著しく傷つけるリスク（ブランドセーフティの脅威）となります。



- **投資の前提条件：**

高いLCAスコアと明確なサステナビリティ・レポートは、もはや「あれば良いもの」ではなく、スポンサーシップ資金を獲得するための「必須条件」です。

# イベント業界のグローバルコミットメント: 2050年ネットゼロ

「Net Zero Carbon Events イニシアチブ」は、55カ国・400以上の組織が結集し、業界全体で共通の脱炭素化の道筋を描くための誓約（Pledge）です。





# イベントLCA の算定について

# イベントLCAとは

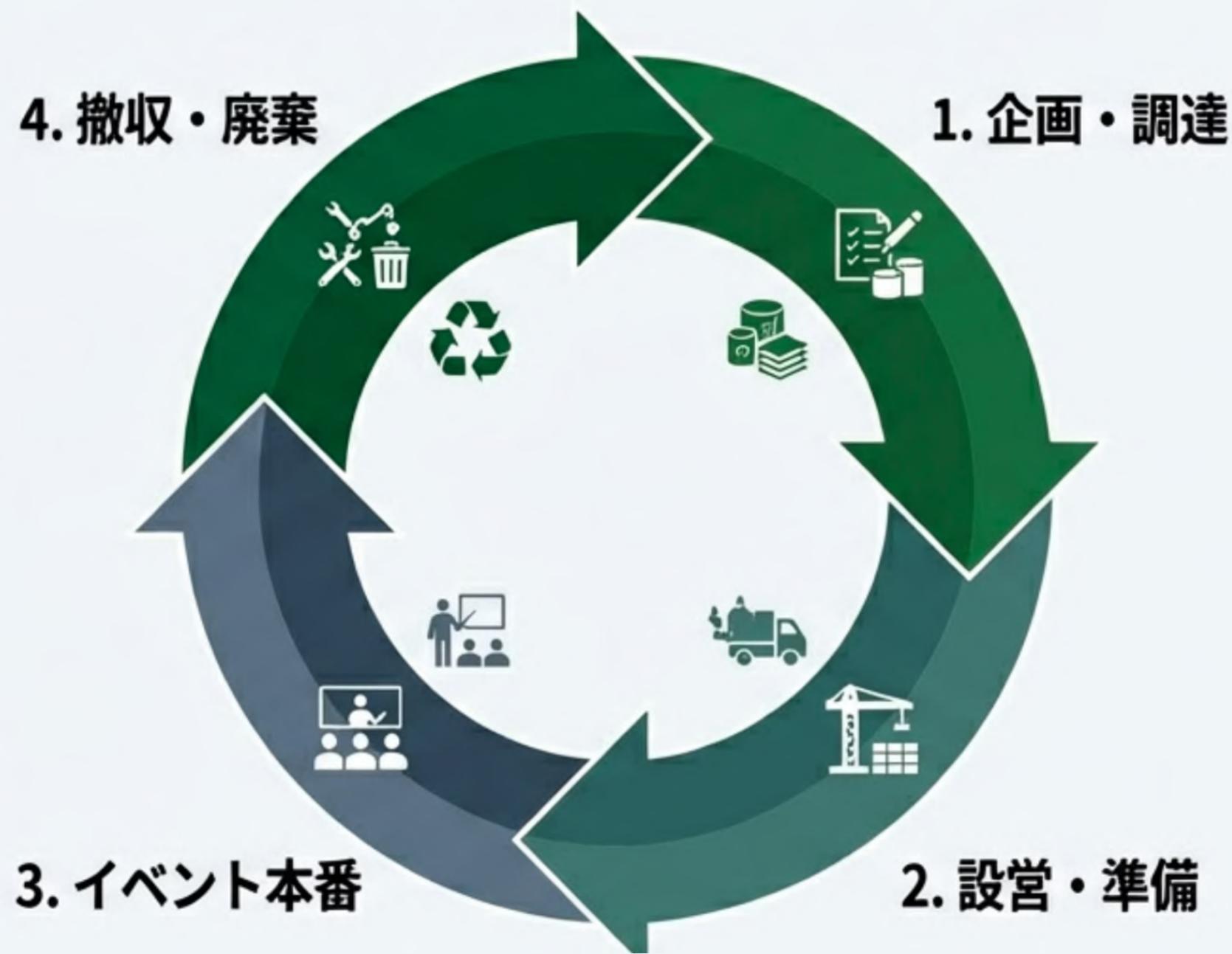
Event LCA（ライフサイクルアセスメント）は、イベント開催における環境負荷を科学的かつ定量的に測定・評価するデータ駆動型のアプローチです。

- **国際基準に基づく評価**

製品やサービスの環境負荷を評価するISO 14040/14044、およびイベントの持続可能性に関するマネジメントシステムISO 20121に準拠しています。

- **包括的な可視化**

企画段階から、設営、開催、そして撤収（廃棄）に至るまでの全プロセスを対象とします。



# ZeveroのイベントLCAツール



以下の8つのカテゴリーから総カーボンフットプリントを算出します



## 基本情報 (General Info)

参加者数、スタッフ数、会場の冷暖房面積



## 移動 (Mobility)

参加者の交通手段別の移動距離



## 宿泊 (Accommodation)

ホテルの星数（4/5つ星はエネルギー消費大）と宿泊数



## 飲食 (Catering)

提供された食事・飲料の数と種類（肉料理vs植物由来）



## エネルギー (Energy)

会場で消費された電力（国別のエネルギーミックスに基づく）



## 資材 (Materials)

印刷物、プラスチック、リサイクル素材の体積/重量



## 貨物輸送 (Transport)

機材・資材の輸送重量と距離



## 廃棄物 (Waste)

残留廃棄物とリサイクルされた廃棄物の量

# 算定対象イベント

## < イベント概要 >

- 名称：第2回Japan Drone/次世代エアモビリティEXPO 2025 in 関西
- テーマ：関西広域地区における ドローン・次世代エアモビリティの新たなビジネスモードへのチャレンジ
- 会期：2025年11月26日（水）・27日（木） 10：00～17：00 ※11月24日（月）搬入、25日（火）レセプションを含める
- 会場：ナレッジキャピタル コングレコンベンションセンター
- 主催：一般社団法人日本UAS産業振興協議会（JUIDA）
- 共催：株式会社コングレ
- 出展者数：81社・団体（予定）
- 来場者数：3,006名（2日間合計）

## < 前回実績 >

- 出展者数：85社（海外3社）
- 来場者数：3,085名（2日間合計）



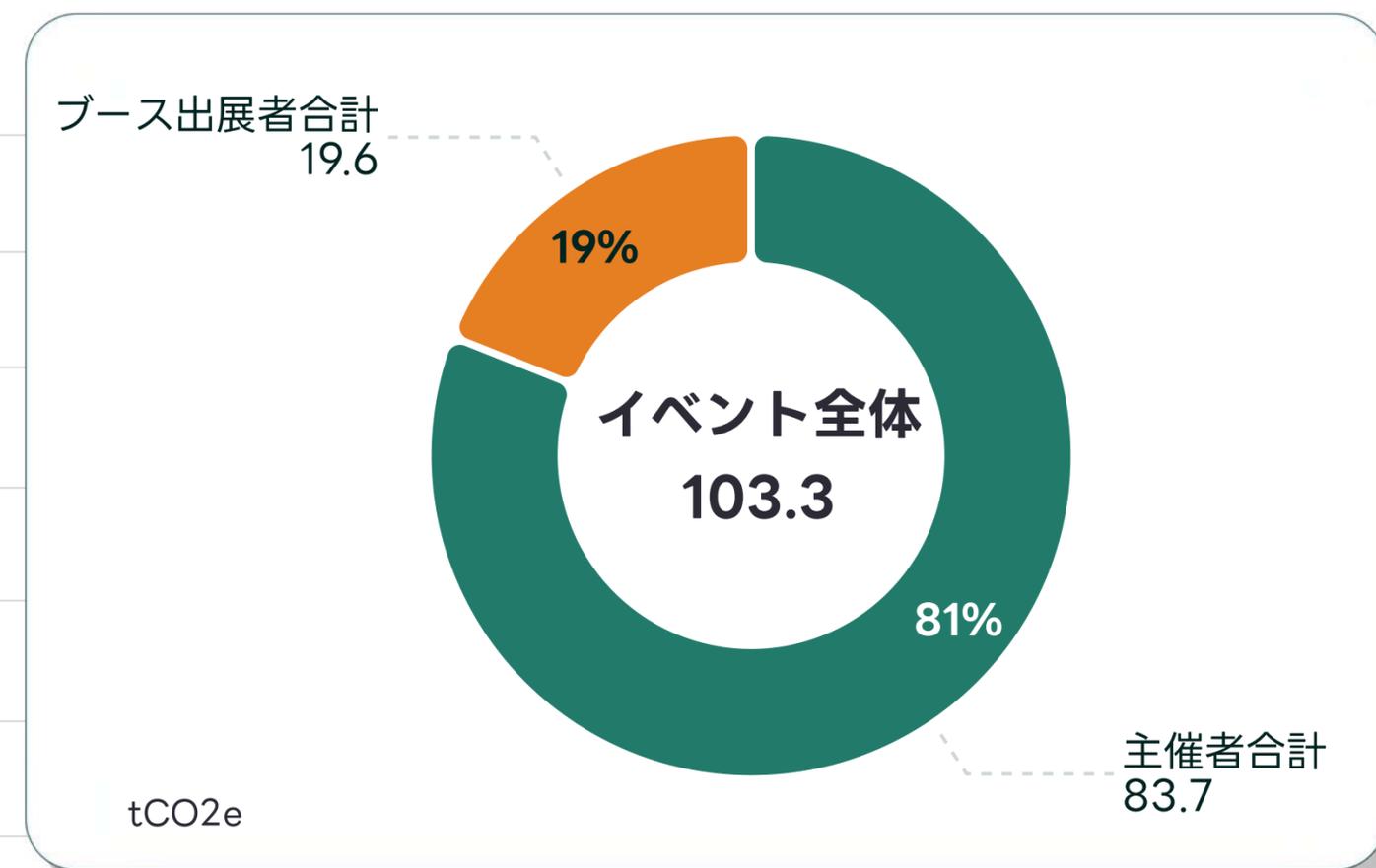
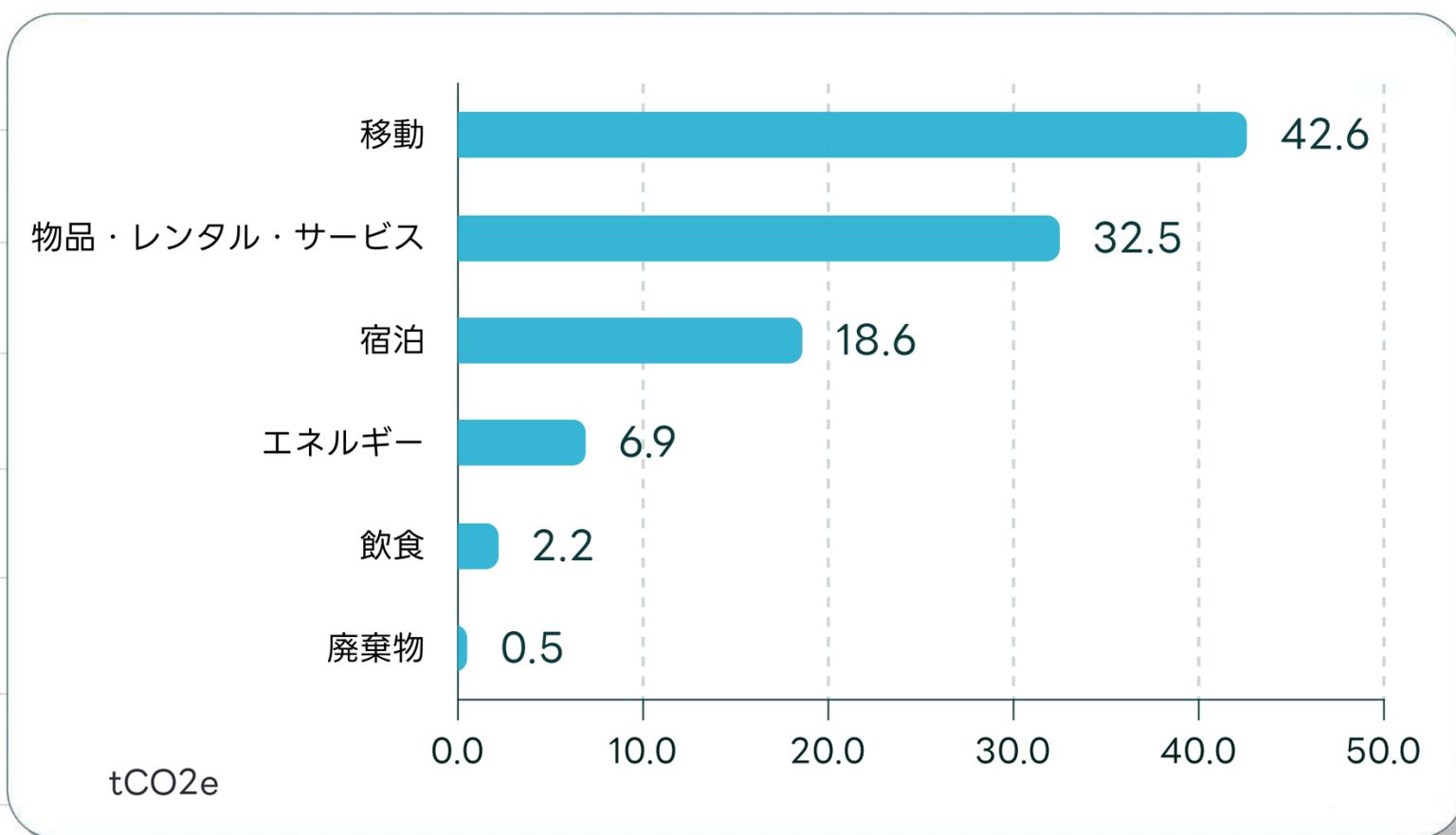
# 第2回Japan Drone/次世代エアモビリティEXPO 2025 in 関西 イベント全体のCO2排出量（主催者 + ブース出展者合計）

# 103.3 tCO2e

- 来場者1人あたり排出量（3,006名）  
0.034 tCO2e（34kgCO2e）

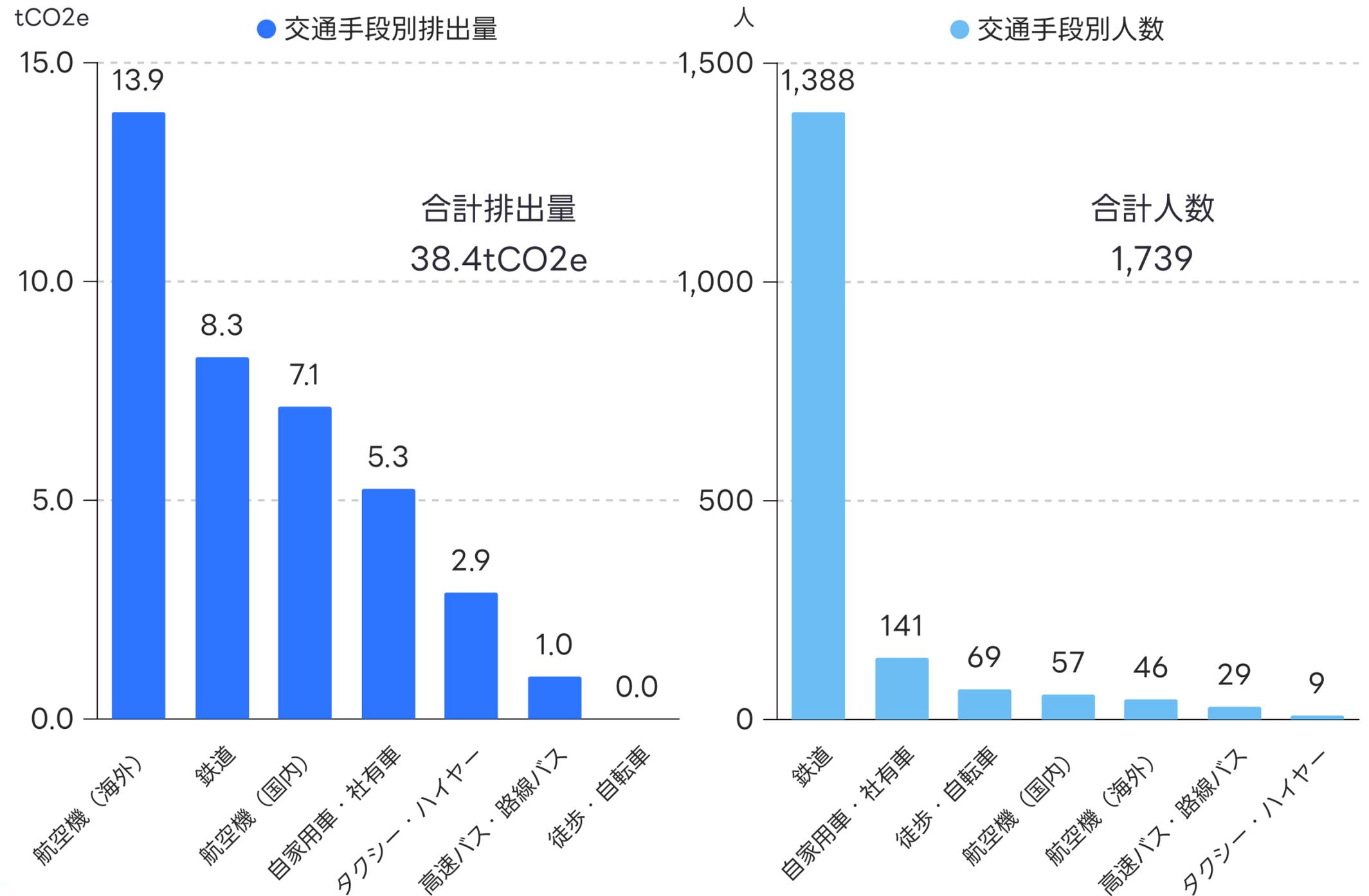
---

- 出展者1社あたり排出量（81社）  
1.28 tCO2e



## 「移動」の分析 交通手段別排出量

- 主催者側で管理している一般来場者及び登壇者、スタッフの合計1,745人のうち、集計不可だった6人を除いた1,739人を対象に、交通手段別の排出量を分析した。
- 最も排出の多かった交通手段は、航空機（海外）で13.9トン、移動の36%を占めた。航空機（国内）と合わせると21.0トンとなり、移動の55%となる。
- 一方、交通手段別の人数を見ると、鉄道が1,388人と8割を占め、一人あたりの排出が小さいことがわかる。

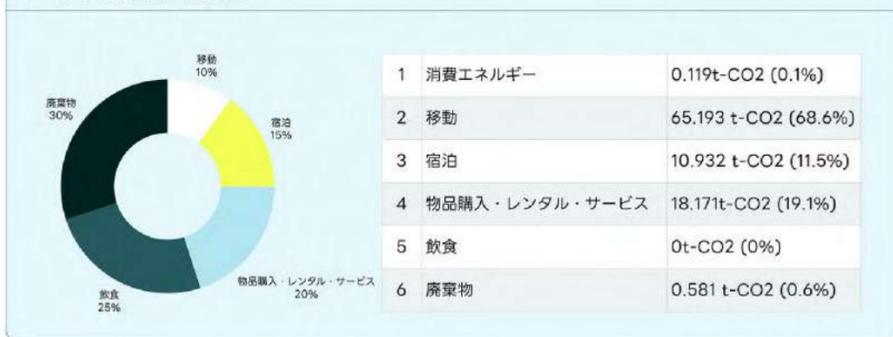
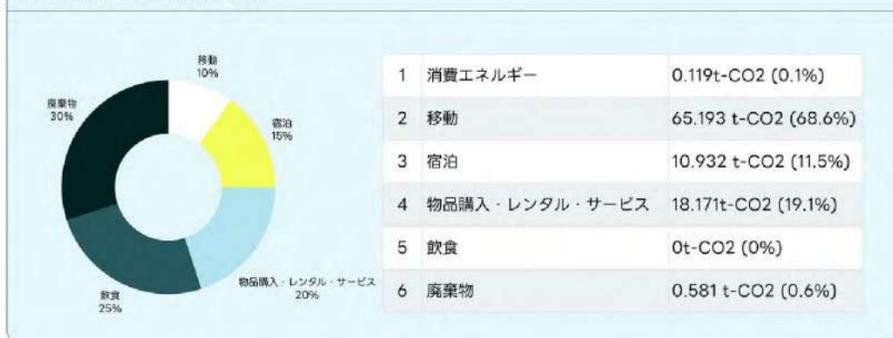


株式会社 ABCD商事様

**イベント基本情報**

- 名称：第2回Japan Drone/次世代エアモビリティEXPO 2025 in 関西
- 会期：2025年11月26日（水）・27日（木） 10：00～17：00
- 会場：ナレッジキャピタル コングレコンベンションセンター
- 主催：一般社団法人日本UAS産業振興協議会（JUIDA）
- 共催：株式会社コングレ
- 出展者数：81社・団体
- 来場者数：3,006名（2日間合計）

イベント全体の排出量	来場者1人あたり排出量	貴社出展ブース排出量
103.3 t-CO <sub>2</sub>	0.034 t-CO <sub>2</sub>	3.5 t-CO <sub>2</sub>

**イベント全体の排出量内訳**

**貴社出展ブースの排出量内訳**

**■使用したデータベース、参考文献等**

- ・ダミー：経済産業省 資源エネルギー庁、第4節 二次エネルギーの動向、発電電力の推移
- ・ダミー：経済産業省 資源エネルギー庁、令和元年度（2019年度）エネルギー供給実績
- ・ダミー：経済産業省、「令和元年度エネルギー消費統計調査」、第1表（3）蒸気・熱源広表
- ・ダミー：農林水産省、令和3年木質バイオマスエネルギー利用動向調査結果
- ・ダミー：電力中央研究所、日本における発電技術のライフサイクルCO<sub>2</sub> 排出量総合
- ・ダミー：電力中央研究所、国内・外産石炭火力混焼用バイオマス燃料の製造・輸送に関わるCO<sub>2</sub> 排出量の評価

## ◆ブース出展社向けの簡易レポート（数値などはダミー）

### <特徴と構成>

- ・宛名を入れて出展者1社ずつカスタマイズした仕様
- ・ヘッダーにコングレ社と弊社のロゴを配置
- ・イベント全体の排出量、来場者1人あたり排出量、ブース出展者の排出量を数値で明記
- ・イベント全体の排出量の内訳、ブース出展社の排出量の内訳を円グラフで表記
- ・使用したデータベース、参考文献などを記載

### <ポイント>

- ・出展者ごとに宛名入りで排出量と内訳を提示することで、「自社のどこを減らすべきか」が直感的に理解でき、次回以降の改善アクションにつなげやすい。
- ・主催者としては、簡易レポートの配布を“参加価値”として提供でき、出展者に対するマーケティングへの活用や、イベントのサステナブル運営をアピールすることで、差別化の切り口にもなる。

## イベント基本情報

- 名称：第2回 イベント安全対策シンポジウム
- 会期：2026年03月05日（木）13：00～17：00
- 会場：ポートメッセなごや コンベンションホールA
- 主催：ポートメッセなごやMICEコンソーシアム
- 共催：株式会社コンプレ
- 出展者数：14社・団体
- 来場者数：132名

 イベント全体のCO<sub>2</sub>排出量

イベント全体の排出量

**3.712** t-CO<sub>2</sub>

来場者1人あたり排出量

**0.028** t-CO<sub>2</sub>

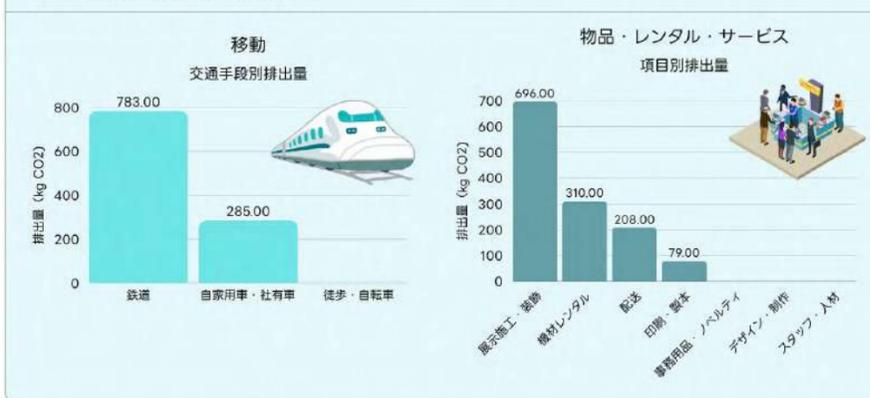
出展者1社あたり排出量

**0.265** t-CO<sub>2</sub>

## イベント全体の排出量内訳



## イベント全体の排出上位項目の内訳



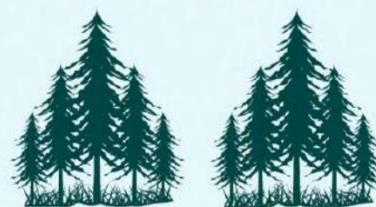
© 2026 Congrès Inc./Zevero Ltd. All rights reserved.  
 本資料は提供データに基づく推計結果です。複製・転載・転用・第三者提供は事前の書面許諾なく行えません（貴社内利用を除く）。

 ◆第2回イベント 安全対策シンポジウムイベント全体のCO<sub>2</sub>排出量

- アンケートへのご回答に感謝する。これにより、LCAの算出に必要なデータの収集が完了した。
- 今回の合計推定排出量は**3.712 t-CO<sub>2</sub>**であり、これは**スギの木約264本が1年間に吸収する量**に相当する。
  - なお、廃棄物関連のデータおよび当日の実際の電力使用量が計算に含まれていないため、最終的な排出量はさらに増加する見込みである。
- 来場者の内訳については、50%が名古屋市内から、25%が東京からの来場であった。移動手段は70%が鉄道を利用し、残りの30%が自家用車または社有車であった。来場者が近隣地域中心であったこと、および大半が公共交通機関を利用したことにより、移動に伴う排出量は低く抑えられている。
- 「物品購入・レンタル・サービス」の項目においては、展示施工・装飾が全体の54%を占め、次いで機材レンタルが24%を占める結果となった。

 CO<sub>2</sub>「1トン」はどれくらい？

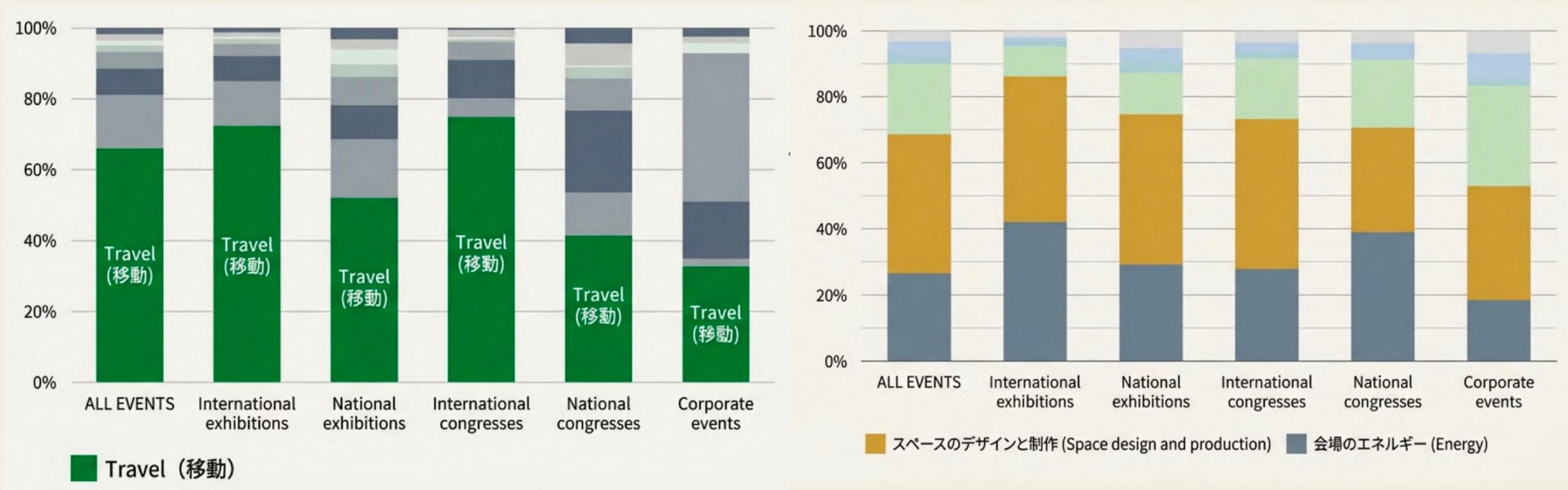
 スギの木約71本が1年間に吸収する量  
 (1本あたり14kg計算)

 普通乗用車（ガソリン車）  
 で約3000km走行時の  
 排出量

 出典: <https://ene.or.jp/uncategorized/co2-reduction/>

# イベントのカーボンフットプリントの内訳



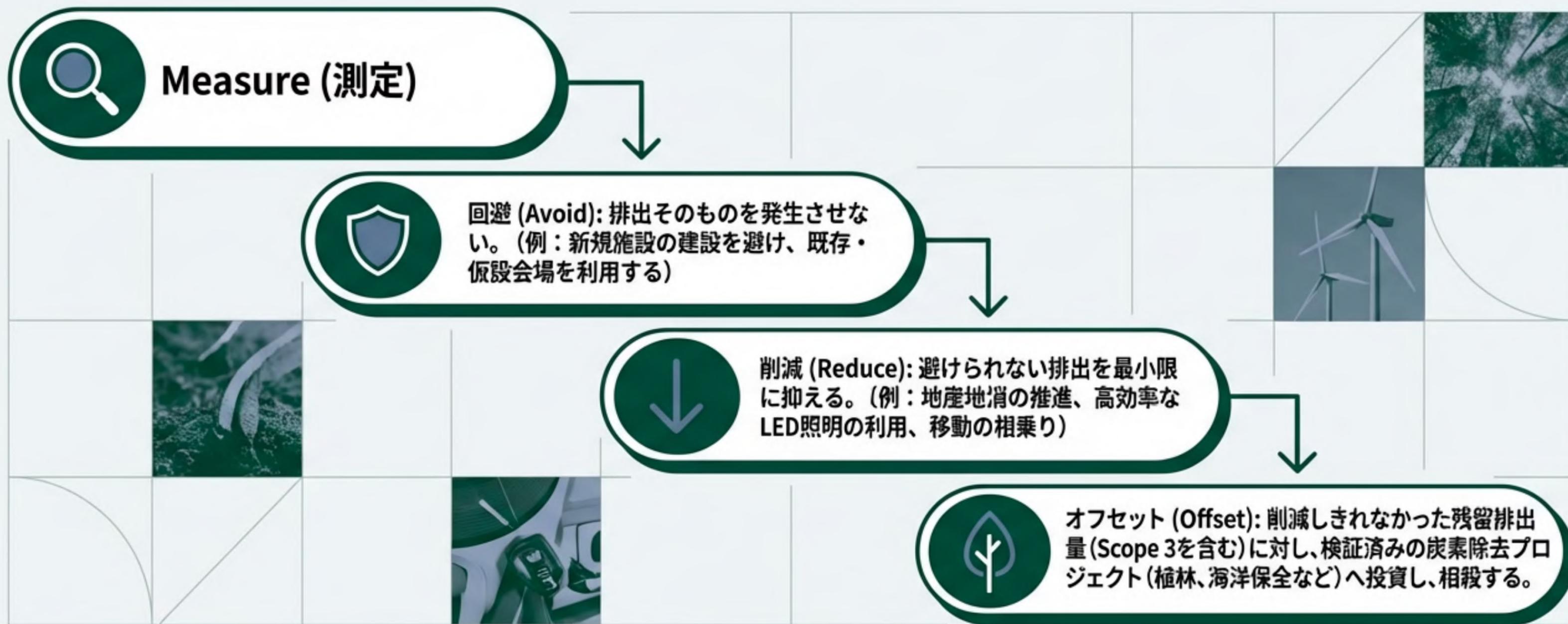
移動が平均的に4割を示す、その後、スペースとブースのデザイン、会場で使用するエネルギーが排出量原として高い



# 測定から緩和へ：AROアプローチの実行



計算は第一歩に過ぎません。真の目的は、算出されたデータを元に環境負荷を低減することです。パリオリンピックでも採用された「AROアプローチ」が標準的な枠組みです。





# サプライチェーン への影響

# イベント排出量の真の姿 (Scope 1, 2, 3)



主催者の直接的な排出 (Scope 1, 2) は氷山の一角。

圧倒的多数の温室効果ガス (GHG) は、サプライチェーン (Scope 3) に潜んでいます。



## Scope 1 & 2

組織所有の排出源、購入した電力  
(会場の冷暖房など)。

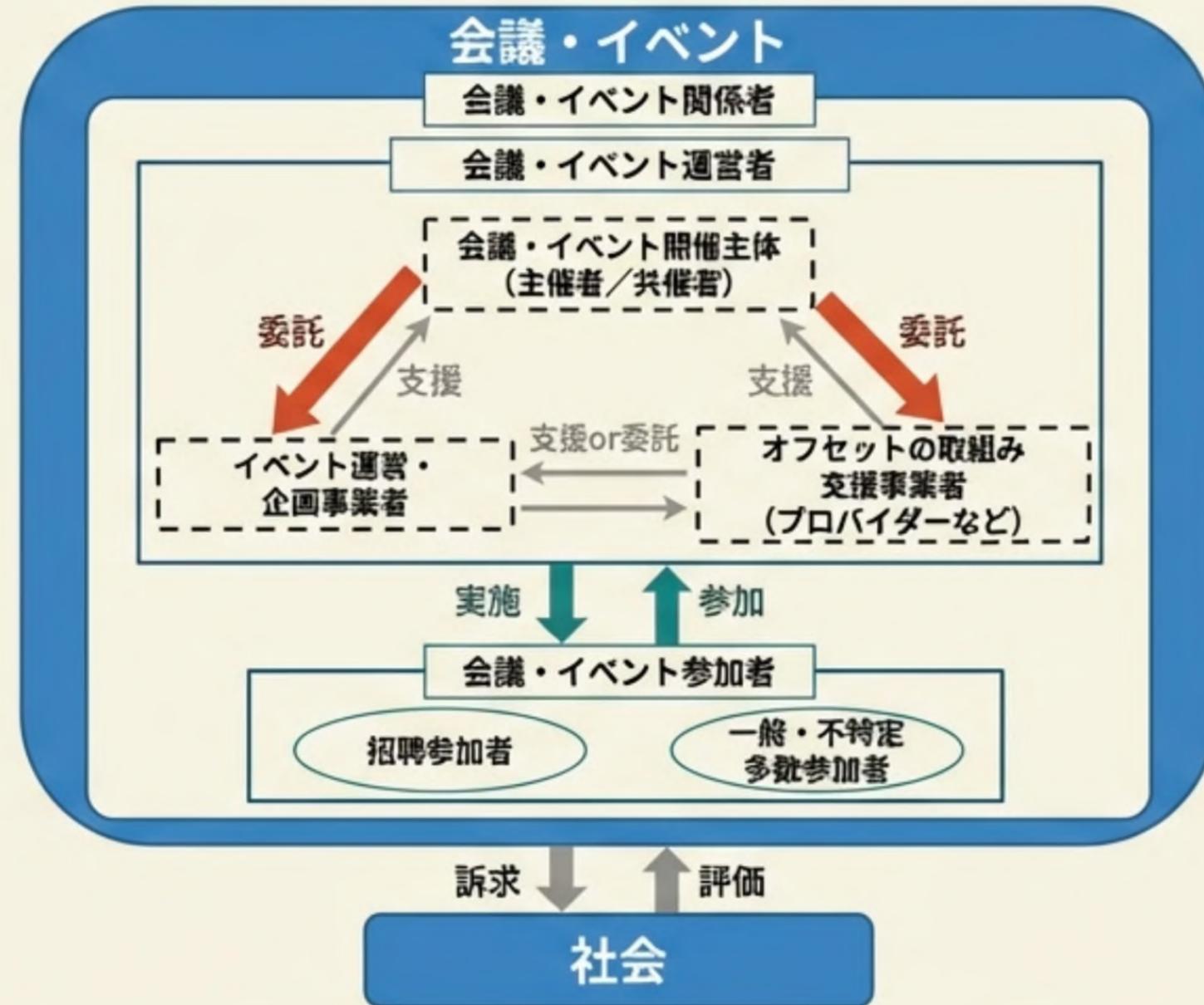
## Scope 3

イベントのサプライチェーン全体  
(移動、宿泊、貨物輸送、造作物の製造、  
ケータリングの調達・廃棄)

イベント業界がNet Zeroを達成するためには、サプライヤーの選択と協働が不可欠です。

# 主催者単独での脱炭素化は不可能

イベント開催にかかわる多種多様なステークホルダー。  
それぞれの排出源に対する「影響力」を行使できるのは、調達の瞬間です。



パートナー選定 (RFP) こそが、主催者が持つ最大の削減レバー。

# 新たな選定基準 ① 会場 (Venue)

再生可能エネルギーの導入と、徹底した運用管理の透明性が求められます。

## 従来の基準

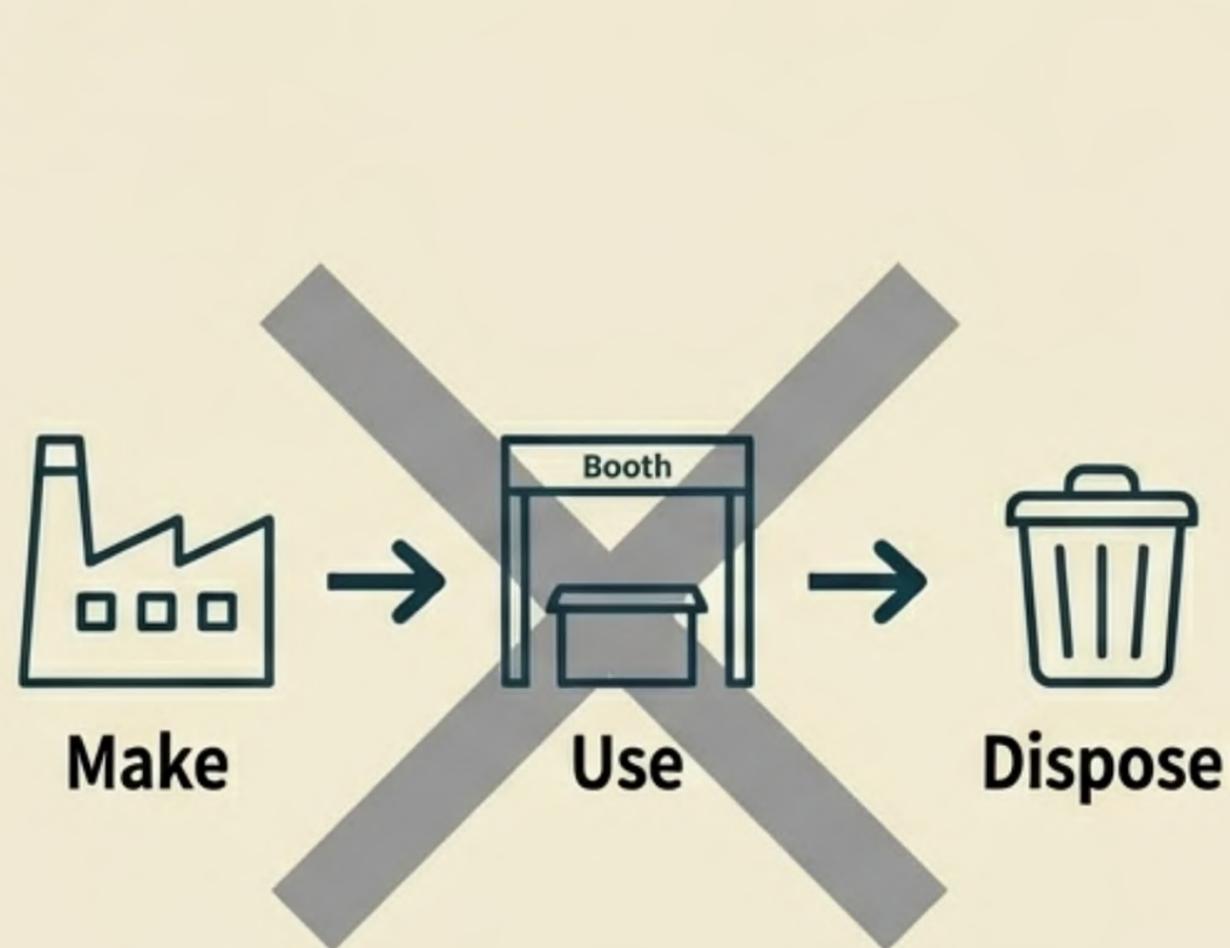
コストと広さのみの評価

## 新たなサステナビリティ基準

- 再生可能エネルギー由来の電力使用 (PPAやVPPAの活用)。
- 厳密な空調温度設定の管理 (推奨：夏 28°C、冬 20°C)。
- イベントごとの正確な消費データを提供するサブメータリングの導入。
- 全照明のLED化とISO 20121等の環境マネジメント認証の取得状況。

## 新たな選定基準 ② 施工・装飾 (Constructors)

「作って捨てる」直線型モデルから、サーキュラーエコノミー（循環型経済）への転換。



- 使い捨てカーペットや過剰な使い捨て装飾の撤廃。 ✓
- モジュラー式・再利用可能なブース設計の標準化。 ✓
- 製作資材の内包炭素（Embodied Carbon）の把握と低炭素素材の選択。 ✓
- 倉庫や現場での廃棄物データ（総量・リサイクル率）の可視化と報告義務。 ✓

## 新たな選定基準 ③ ケータリング (Food & Beverage)

イベント全体のCO2排出と予算の大部分を占める「食」のサプライチェーン改革。



- 地産地消、旬の食材、サステナブルなシーフードの優先調達。 
- 使い捨てプラスチック容器の全廃（リユース食器への完全移行）。 
- 食品廃棄物（フードロス）の削減計画と、食べ残し食品の寄付プログラム・堆肥化。 
- 低炭素メニュー（植物由来のオプション等）の提供能力。 

## 新たな選定基準④ ロジスティクス・移動

輸送効率の最大化と、現地調達による「移動させない」イベント設計。



- 低炭素・ゼロ排出車両（EVやバイオディーゼル）による輸送網の構築。 ✓
- 資材の現地調達（Local Sourcing）による貨物輸送距離の大幅削減。 ✓
- 複数の出展者や主催者間での資材共有（カーペット、AV機器等のシェアリング）。 ✓
- 宿泊施設：炭素削減計画を持つホテルや、サステナビリティ認定ホテルの優先手配。 ✓

# 「グリーン」を超えるサステナビリティの定義

真のサステナビリティは環境保護だけではありません。「トリプルボトムライン」の原則に従い、持続可能なイベントは以下の3つの柱のバランスの上に成り立ちます。



## 国際規格（ISO 20121）が示す事実



**ISO 20121**

2024 UPDATE

持続可能なイベント運営の国際規格「ISO 20121」（2024年2月改訂）は、廃棄物や炭素排出量の管理だけを定めたものではありません。

ESGの「S（社会）」領域として、群衆管理（クラウドコントロール）、セキュリティ、労働条件、そして健康と安全のリスク評価をマネジメントシステムに組み込むことを明確に要求しています。

- ・実績: ロンドン2012オリンピックでの導入により、安全かつサステナブルな運営を両立。

# 共通の「予防」の組織文化

別々の部門であっても、依存している運用プロセスは完全に一致しています。



- リスク評価（Risk Assessment）による事前の危険・影響の特定
- 事後対応ではなくプロアクティブな予防
- 深い説明責任と継続的改善（PDCAサイクル）

# イベント調達の「新方程式」

コストと品質だけで選ばれる時代は終わりました。  
安全性とサステナビリティもイベントの成否を決める柱です。

$$\left[ \text{コスト} \right] + \left[ \text{品質} \right] + \left[ \text{安全} \right] + \left[ \text{サステナビリティ} \right. \\ \left. \& \text{データ透明性} \right] = \left[ \text{新たな} \right. \\ \left. \text{調達基準} \right]$$

## Disclaimer

This document has been prepared solely for the purpose of presenting relevant information regarding Zevero Ltd. ("Zevero"), and this document is not intended for a solicitation of any investment.

The information on industry, market trends or economic and other conditions contained in this document is prepared based on the information currently available, and Zevero is not liable for the truthfulness, accuracy or completeness of such information.

Any forward-looking statements, including targets, plans, estimations, forecasts and expectations, contained in this document are based on the current judgments and opinions of Zevero as of the date of this document, and involve certain risks, uncertainties and other factors. Due to factors, the actual results of Zevero may be materially different from statements contained or implied in this document.

